



イノアックCSRレポート2016

INOAC CSR REPORT 2016



目次

目次、編集方針	01	【価値向上のために】	
企業理念、行動指針	02	お客様の声を活かした製品づくり	21
ごあいさつ	03	サプライチェーンマネジメント	22
【会社プロフィール】		【社会とのコミュニケーション】	
会社概要	04	社会・地域貢献活動	23
【特集】		【働きやすい職場づくり】	
2016年熊本地震への対応と災害支援	07	ワークライフバランスの推進	25
グローバル人材育成の取り組み	10	ダイバーシティの取り組み	26
【環境との調和】		人材育成	27
環境マネジメント	13	安全衛生・防災	28
環境負荷の低減	15	【ガバナンス】	
化学物質の情報管理	17	コーポレート・ガバナンス	29
環境コミュニケーション	18	コンプライアンス	30
環境対応製品事例	19		

｜ 報告期間 ｜ 本報告書は株式会社イノアックコーポレーションにおける2015年度(2015年1月1日～12月31日)の活動実績をもとに作成
※2014年度とそれ以前・2016年度の内容も一部含まれます。

｜ 対象範囲 ｜ 株式会社イノアックコーポレーション
※一部は国内および海外のイノアックグループを含みます。※環境報告の対象範囲は以下の通り
株式会社イノアックコーポレーション(安城事業所、桜井事業所、南濃事業所、八名事業所、本社(名古屋)、
東京支店、大阪支店、池田工場、池田第二工場、大野工場、神野工場)と株式会社イノアック住環境の一部を含みます。

｜ 参考とするガイドライン ｜ ◎[環境報告書ガイドライン2012年度版] ◎ISO026000

企業理念

一本の大きな木を育てるより、
多くの個性ある木を育て、美しい森をつくる。

イノアックは「暮らしをもっと豊かにしたい」という思いから、ひとつの事業に特化することなく、ウレタン・ゴム・プラスチック・複合素材という4つの苗をもとに、多くの事業(=木)を育て、企業体として多彩な製品、サービスを作り出し、社会へ貢献して参りました。イノアックはこれからも多くの個性ある木を育てることで、時代のニーズにお応えしていきます。

Innovation & Globalization

イノアックは高分子化学で世界をリードし、迅速な決断と行動で、活気と個性に満ちたグローバル集団をめざします。それと共に「行動指針」を定め、社内外ともに裏表のない行動で「企業理念」を確実に実行・実現することで、地域社会、顧客、イノアックに関わる全ての人々に信頼されるブランドを確立します。

行動指針

- 挑戦** 自由に発想し失敗を恐れず行動します。
- 収益** 継続的な事業発展と利益ある成長をめざし行動します。
- CS** 顧客満足度を高めるよう行動します。
- チームワーク** 個性を発揮し、信頼される行動をします。
- 誠実・信頼** 虚偽を廃し、信頼される行動をします。
- 責任** 責任を持って最後まで行動します。

ごあいさつ

革新的なアイデアと、長期的な事業戦略に基づき 更なるグローバル化を推進します

2015年を振り返りますと、我が国では、原油安による原材料費の低減や日銀の金融緩和に伴う円安の定着により輸出採算が向上し、また雇用情勢の改善もあって、穏やかながらも景気は回復基調を維持しました。一方、海外では、アメリカ経済は原油安や雇用の改善による個人消費の拡大などを背景に堅調に推移しましたが、これまで世界経済を牽引してきた中国では経済の低迷が鮮明化し、東南アジアでは中国経済の落ち込みが影響して、資源価格の下落や自国通貨安などを受け経済成長は鈍化しております。

また、2016年の国内経済は、景気の緩やかな回復基調の継続が期待されつつも、日銀によるマイナス金利導入に伴う急激な株価や為替の変動など不透明な状況が続くことが予想されますが、経済活動のグローバル化はますます加速されていきます。

このような経済情勢のもと、当社では「Innovation (革新) & Action (行動)」を全社テーマに掲げ、環境変化に対するスピーディーかつ柔軟な体質造りと経営の現地化に向けた企業活動を展開して参りました。中国では生産の効率化、投資リスクの分散を目的に自動車部品事業の再編を実施し、東南アジアではタイ、インドネシア、ベトナムで新たな発泡品工場を建設し競争力の強化を図るなど、事業のグローバル化を推進しております。

当社の事業活動の原点は「材料開発を基軸とし、プロセス開発を通じて得られた新素材・新材料を用いて新製品を創造すること」であり、広く世界に通用する真のグローバル経営をめざしております。そのためにも、当社では革新的新技術・新製品の開発、海外拠点現地社員を含めた各種研修を通じたグローバルな人材育成、海外拠点を活用した当社開発製品の拡販や、グローバル規模での営業活動に取り組みながら、成長市場に重点を置いたグローバル事業活動の推進と海外事業の現地化、開発力の強化に努めて参りたいと存じます。

皆様方にはこの機会をお借りしまして、平素のご支援とご理解に心よりお礼を申し上げますとともに、引き続きご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



株式会社イノアック コーポレーション

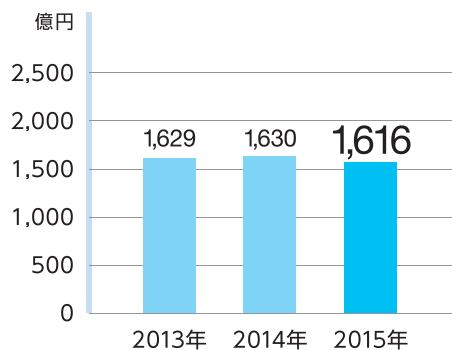
代表取締役 翁 豊彦

会社概要

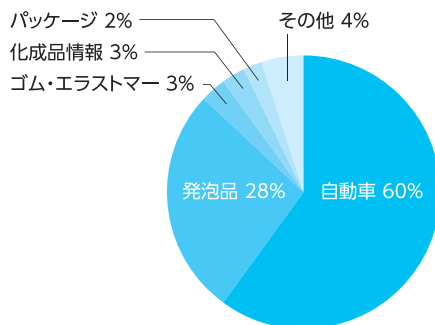
社名	株式会社イノアックコーポレーション INOAC CORPORATION
設立	1954年(昭和29年)
資本金	7億2,000万円
代表	代表取締役 井上聡一
社員数	1752名(2015年12月)
売上高	1616億円(2015年12月)
事業内容	ウレタン、ゴム、プラスチック、複合材をベースとした材料開発とその製品化により、自動車、二輪、情報・IT機器、住宅・建設関連から身近な生活関連商品、コスメ用品まで、様々な場面に密着した製品を取り扱う
本社	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南二丁目13番4号
本社(東京)	〒141-0032 東京都品川区大崎二丁目9番3号(大崎ウエストシティビル4F)
事業所および工場	安城、桜井、南濃、新城、八名、豊橋、石巻、武豊、吉良、池田、大野、秦野
主要営業拠点	東京、中部、大阪、九州(支店)、札幌、東北、浜松、広島(営業所)
研究所	株式会社イノアック技術研究所
海外拠点	北米、中国、韓国、東南アジア

売上

■ 売上推移



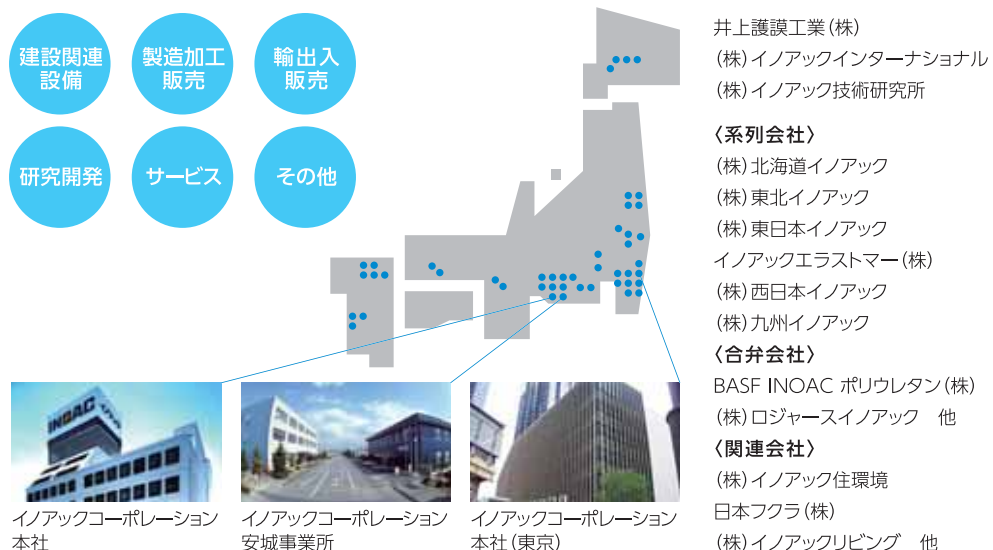
■ 2015年度事業分野別売上



ネットワーク

国内主要拠点

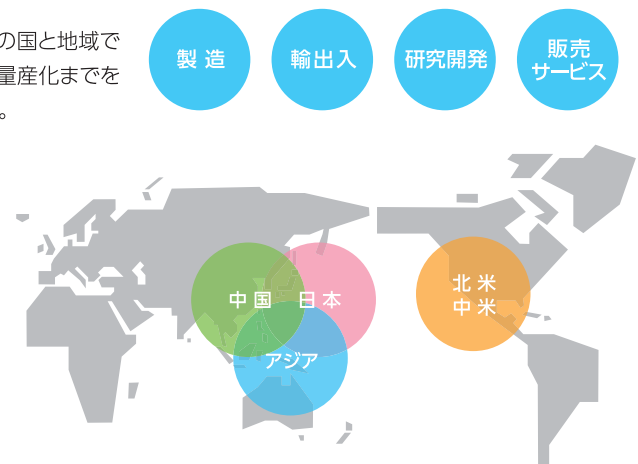
イノアックコーポレーションの全国ネットワークに加え、系列・関連・合併会社が北海道から九州まで緊密な生産・販売ネットワーク体制を確立し、最適なソリューションを提供しています。



海外主要拠点

北米・アジアを中心として、全世界14の国と地域で研究開発から素材の加工・成型技術、量産化までを提案・提供する体制を構築しています。

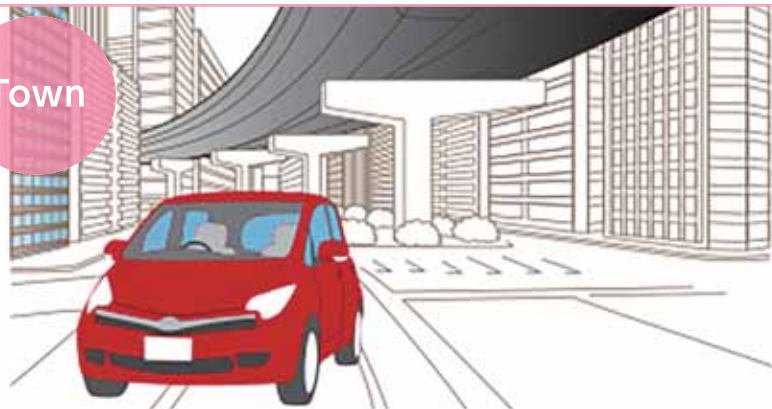
- 〈北米・中米 19社〉
アメリカ 11社
カナダ 3社
メキシコ 5社
- 〈中国 39社〉
中国本土 36社
香港 3社
- 〈アジア 34社〉
タイ 14社
台湾 3社
インドネシア 4社
ベトナム 4社
韓国 1社
シンガポール 4社
フィリピン 1社
マレーシア 1社
スリランカ 2社



製品紹介

ウレタン、ゴム、プラスチック、複合材をベースとした材料開発とその製品化により、自動車、二輪、情報・IT機器、住宅・建設関連分野から身近な生活関連商品、コスメ用品まで、生活の様々な場面に密着した製品で豊かな暮らしに貢献しています。

Town



インフラ関連資材

地中熱交換用パイプ、空調断熱材、高機能止水パッキン材、橋梁添加管、凍結防止用複合管

自動車部品

内装部品、外装部品、シート部品、機能部品、モール部品

ウレタン

ゴム・ エラストマー

Home



住宅建築材

断熱材、防音材、住宅内排水消音部材、配管保温保冷材、給水・給湯用被覆銅管、温水床暖房パネル、高機能止水パッキン材

Office



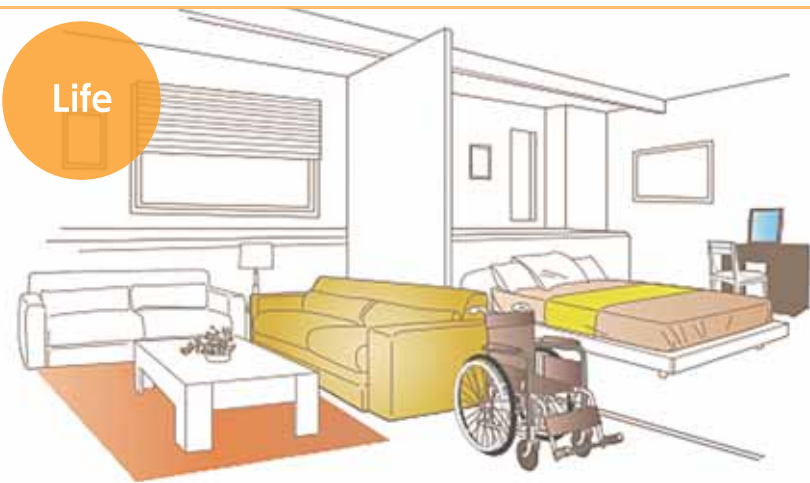
オフィス関係

OA機器用品機能ローラ、OAフロア、液晶・電子部品シール材、モバイル筐体内装部品、足ゴム

プラスチック

新素材・ 複合材

Life



コンフォートシリーズ

介護用品、寝具・家具、省エネ関連製品、粧材関連製品、温水式床暖房システム

技術革新

研究開発

イノアックでは「暮らしを豊かにする」をモットーに、未来を見据え、創造性にあふれた研究開発に取り組んでいます。ポリマーを主体として各種ウレタン、プラスチックやエラストマーの配合・発泡・成形技術、その他複合材料の技術を駆使し、自動車産業をはじめ情報通信・電子機器・産業資材・生活用品等の幅広い分野で常に新しい素材を提供しています。また同時に、環境負荷の軽減、軽量、省エネルギー、高機能化の新製品、新プロセスの研究・開発を進めています。



研究・開発体制

グローバル技術本部にゴム、ウレタン、樹脂素材を開発する材料技術部を創設し、素材の高機能化に対応しながら、環境技術、安全技術を高めマーケットニーズに直結した技術開発を進めています。各分野の製品にはGlobal Developing Managerを選任し、開発計画を立案して各エリアで実行することで、グローバルで迅速に対応できる体制を築いています。産業界の先端領域における新素材の開発は、イノアック技術研究所で担っており、中国 (ITC CHINA)、アメリカ (ITC USA)、タイ (ITH) との協力体制で国内外の新技术に関する情報をいち早く収集し、中・長期的視点から、新規事業主体の研究開発に取り組んでいます。



ITC JAPAN
株式会社イノアック技術研究所



ITC CHINA
蘇州井上高分子新材料有限公司



ITC USA
INOAC USA INC.



ITH THAILAND
INOAC (THAILAND) CO., LTD.

2016年熊本地震への対応と災害支援

そのときイノアックはどうか

2016年4月14日21時26分とそれ以降数回にわたり、熊本県を中心に強い地震が発生しました。イノアックは熊本県菊池市に製造拠点（菊池工場）があり、お取引様や地域に住む従業員が多数あります。幸い従業員は全員無事で、工場建屋や設備への致命的な被害はありませんでした。この特集では今回の地震の後、イノアックが行った災害支援活動と復旧作業についてご報告します。



益城町：菊池工場から車で30分

熊本市内：菊池工場から車で1時間

■ 菊池工場での地震発生直後からの時系列

4月14日21時26分

熊本地方最大震度7の地震発生、菊池市は震度5強

4月15日

現場点検の結果（異常なし）と安否状況を本社へ報告

4月16日1時25分

熊本地方最大震度7の地震発生、菊池市は震度6強

4月16日未明

夜勤者および近隣住民が工場グラウンドに避難

4月16日5時

ライフライン（水道、電気）を確認、問題なし
（水道は井水、電気は特高により供給）

4月16日7時

防災対策本部を事務所棟2階に設置

4月16日

従業員約20名が集合し、従業員の安否確認を開始

4月16日9時

防災対策本部を事務所棟2階から旧事務所に移動
（余震が強く、2階は危険と判断したため）

4月16日11時

余震が強いため、工場建屋内への出入りを禁止

4月16日昼

昼食は非常食のカレーライス（1回目）

4月16日15時

余震が強く復旧作業に手をつけられないため、2名当直として他は解散

4月16日

菊の池体育館、大津中学校、大津町障がい者福祉施設、大津町美咲野小学校、菊陽町役場、合志市役所、上益城農業協同組合益城支所、長洲町役場などに、支援物資の提供を開始。また顧客や菊池工場従業員にも同様に支援物資を提供する



夜勤の従業員及び近隣住民が工場グラウンドに避難

4月17日早朝

従業員22名が集合し建屋状況を確認、工場内設備点検を開始

4月17日10時

全従業員の安否を確認

4月17日11時

建屋および生産設備の状況を把握

4月17日12時

社有車ガソリン補給完了

4月17日昼

昼食は非常食のカレーライス（2回目）

4月17日19時

建屋の安全と設備復旧のめどがたち解散

4月18日8時30分

緊急全体朝礼、本社より支援部隊到着

4月18日

本格的に復旧に向けた活動を開始

◇ 建屋鉄筋プレス補強：余震に備えて建屋補強

◇ 生産設備の位置ずれを修正、復旧

◇ 仕入れ先状況の把握：

一部に孤立、生産設備の損壊あり

◇ 従業員の被災状況確認

◇ トラックのレンタル

◇ その他



工場被害：作業台ズレ



工場被害：天井崩壊

■ 菊池市へ支援金進呈



菊池市江頭市長(向かって左)へ翁代表取締役から支援金の目録贈呈

支援金総額 **3,000,000円**

■ 国内外拠点から集まった善意

人事総務部長 大矢 英男

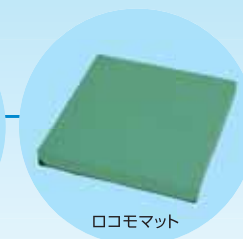
2016年4月19日、(株)イノアックコーポレーションとイノアック労働組合は、熊本地震で被災された方々(社内被災者を含む)向けの義援金募集を、全世界のイノアックグループ社員に呼び掛けました。義援金募集の輪は、国内主要事業所・系列会社・関連会社35拠点をはじめ、北米・韓国・フィリピン・インドネシア・マレーシア・タイ・ベトナム・中国(6社)のイノアック社員・現地社員・パートナーの皆さんへ広がり、多大なる善意が集まりました。

募金総額 **5,293,821円**

■ 主な支援物資



ベリー暖ケット



ロコモマット

品名	数量
マットレス	2,400枚
P・E-ライト/P・E-ライトZマット	1,844枚
P・E-ライトZシート	241枚
飲料水(ペットボトル)	4,479本
カップめん	504個
さんま缶詰	50個
ティッシュ	90個
ウエットティッシュ	30枚
マスク	10,000枚
タオル	5,000枚
軍手	5,000枚
ベリー暖ケット(防寒具)	600枚
ロコモマット(高齢者向け運動具)	20枚
その他	



グループ会社の(株)九州カラーフォームでマットレスの突貫生産、支援物資として提供



菊池工場製造の2Lペットボトル容器を自衛隊の給水所に提供



従業員一丸となり素早い復旧へ

(株)九州イノアック 菊池工場長 友清 考治

4月14日の菊池市震度5強の地震では幸い工場内外での損傷もなく、夜勤も通常稼働しました。16日未明の震度6強の地震は想像以上の揺れで、初めにドスンと上下に揺れた後に、横揺れが30秒以上続いたように感じました。その後も震度5強クラスの揺れが断続的に続き、会社に向かう道中も激しく車が揺れた事を思い出します。工場内の点検を始めましたが、余震が余りに頻繁に発生するため16日中は工場への立ち入りを禁止としました。

生産設備被害は、ブロー成形機の位置ズレの他に押し出し機の芯ずれ等がありましたが、すぐに復旧させて生産に支障は出ませんでした。建屋は床面の割れや壁のヒビ、天井の部分落下等が生じており、地震による建屋損傷部位は86か所になりました。

従業員の安否確認は、避難所に数名の方が一時避難されており確認が遅れましたが、全員無事で安堵しました。従業員の中には、自宅半壊や一部損壊の建屋被害が生じています。今現在(6月時点)も罹災証明取得や損傷部の業者修復を行っている所です。

今回の地震では被災工場としての復旧作業と災害支援拠点の役割があり、復旧支援は本社からの支援部隊、災害支援は本社営業部隊が活動を行いました。

復旧作業では安全かつ完全復旧をめざし、誰も怪我する事なく生産可能な状態に戻すことができました。

熊本は阿蘇を含めて着実に復興しています。皆さん、機会があれば是非とも九州地区に足を延ばしお立ち寄りいただければ、これ以上の復興はないと思います。よろしくお願い致します。

復旧支援隊の活動報告

安全衛生防災管理室 内藤 邦尋

4月17日に安城から熊本入りしました。2回目の震度7が熊本を襲った翌日です。空路より確実な新幹線で博多に入り、そこから車で南下し、夜の10時頃に熊本植木の旅館に到着。宿は自衛隊・赤十字隊や報道陣でいっぱい、緊張した雰囲気の中で8人相部屋に通されました。この宿は2日しか予約が取れず、この後は甘木、筑後、八女と宿を求めて転々とする事になりました。

支援隊は、私のほかにグローバル生産管理部2名、プロセス部1名、人事総務部1名、物流部1名、自動車部品事業部調達部1名の総勢7名です。

翌日菊池工場へ向かい、まず全員朝礼で支援隊到着の報告。この朝礼の間も震度4が発生。この日は震度3~4が6、7回は発生しました。友清工場長の状況報告を受けて、さっそく工場の被災状況、従業員やその家族の安否、仕入れ先状況、製品在庫などを確認、被災した従業員のお見舞いなど分担を決めて活動を開始しました。

幸いにも菊池工場および菊池市の被災は軽微でした。ただ、ご家族の安否が不明な従業員の方々がいたこと、南阿蘇の仕入れ先が一時孤立したことが、当日の最大の懸念事項でした。

熊本は落ち着きを取り戻しつつあるようですが、まだ生活に不自由されている人たちが沢山いることを忘れてはいけません。また、いつ来るかわからない自然災害への備えを怠ってはいけません。地震・カミナリ・火事・オヤジです。



今年の新入社員：みんな元気を取り戻しています

グローバル人材育成の取り組み

イノアックにおける人材育成

イノアックでは、次世代の人材育成や広く世界に貢献できる人材育成にも力を注いでいます。この取り組みのひとつとして、日本の大学で学ぶ外国人留学生と海外へ留学する日本人学生を支援する目的で、1987年にイノアック国際教育振興財団を設立しました。また2014年、日本で初めてポリウレタン主体の高分子分野を対象とした研究と研究者を助成する、ポリウレタン国際技術振興財団も設立しました。



■ 公益財団法人イノアック国際教育振興財団

1950年代から事業のグローバル展開を推進してきたイノアックは、世界に通用する人材育成の必要性を痛感してきました。このため、グローバルに活躍する人材の育成を目的とした「イノアック国際教育振興財団」を設立しました。1987年の設立以来、アジア諸国をはじめ様々な国の優秀な学生の日本への留学や、日本の優秀な学生の海外留学に奨学金を給付し、支援を受けた学生の人数は280人を超えました。多感な若者が自分の生まれ育った国を離れ、言葉や文化の違う異国で多くの困難を乗り越えつつ生活する体験は、その若者本人のその後の人生に、いかほどの影響を与えるか計り知れないものがあります。また、自分とまったく異なる考えをする人々がいて、それらの人々と意思疎通し、理解しあえる能力を持つ若者を育てることは、ひいては将来の世界平和や国際理解への貢献につながると信じています。



公益財団法人イノアック国際教育振興財団

交流活動

イノアック国際教育振興財団では年間を通じて、さまざまな交流活動を行っています。そして財団と奨学生、また奨学生同志の絆を深め、未来につながるネットワークを構築しています。

工場見学

日本の製造業の一例として、イノアック安城事業所の工場見学を実施しています。自動車部品、発泡品の製造ラインの見学を行い、ショールーム見学では、多くの奨学生たちが、私たちの生活の中には想像以上にイノアック製品が活用されていることに驚いていました。多様な素材で、あらゆる分野・業界で人々の暮らしに役立っているイノアックの事業内容について、奨学生のみなさんに大変興味を持っていただいております。



研究発表会

日頃の学業の成果について、奨学生のみなさんが大学・大学院で学んでいる研究内容を発表し、活発な意見交換を行います。研究発表はそれぞれ違う分野の内容で、奨学生のみなさんは非常に興味深く発表に耳を傾けています。「仲間の研究発表を聞くことで、自分自身の学びになった」「様々な視点からの質問を受けることで、今後の研究を改善することにも役立ち、全面的に問題を掘り起こすことができた」という奨学生からの声が多く寄せられています。



懇親会

毎年、日本ならではの伝統文化を体験できる日帰り旅行を実施し、当財団の役員と奨学生との親睦と理解を深めています。懇親会には奨学生OB・OGも参加し、役職、年齢、国籍、性別を越えて、楽しい雰囲気の中で、交流活動を行っています。2015年には愛知県豊川にてちくわ作り体験、新城の湯谷温泉にて温泉入浴、昼食懇親会を行いました。また奨学生の意見を積極的に取り入れ、奨学生が主体となり企画・立案する各国の料理会を実施しています。奨学生たちは忙しい時間の合間を縫って集まり、打ち合せを重ねます。そして奨学生ならではの楽しいアイデアが凝縮された、各国の料理会が開催されています。



■ ポリウレタン国際技術振興財団

アジアにおいて初めてポリウレタンフォームの生産が開始されてから60周年の節目である2014年に、一般財団法人ポリウレタン国際技術振興財団が設立されました。ポリウレタンフォームはその用途が生活用品から物流、自動車部品、情報機器へと多方面にわたり多様な展開を遂げてきており、人々の暮らしをより豊かで便利かつ安全なものにしてきました。



ポリウレタン国際フォーラム2015

ポリウレタン業界は、多様な開発によって産業の発展に大きく貢献していくことが期待されていると同時に、安全・環境・グリーン・エコロジー・省エネなどの環境問題に直面しており、地球環境保全といった社会的な環境、課題に業界全体で応えていく必要があります。高分子化学およびこれに関連する分野の研究に携わる研究者の研究活動を支援し、学術の発展に寄与することを目的として、将来のポリウレタン産業の発展のため、ポリウレタン研究の更なる発展と人材の育成をめざし、支援活動に努めています。

ポリウレタン国際技術振興財団はその主な事業として、ポリウレタン技術の発展および環境にやさしい研究開発等に貢献している大学、研究所、個人等の研究機関に対し支援するとともに、ポリウレタン国際フォーラム等のポリウレタン研究発表に関する会合を主催、共催または協賛することで、国内外を問わず高分子分野の研究者の活動を支援し、研究に寄与しています。

2015年には「アジア発 ポリウレタンの未来を探る!」と題しポリウレタン国際フォーラム2015を開催し、「安全」「環境」「グリーン」をメインテーマに掲げ、国内外から多くの参加者を得ました。当日は参加者による活発な意見交換、情報交換がなされ、ポリウレタン業界の今後の成長に向けた議論の場となりました。



ポリウレタン国際フォーラム2015

環境マネジメント

環境理念

イノアックは、環境と調和するテクノロジーと、環境を大切にす企業活動を通じて、かけがえのない地球の自然環境を尊重し、豊かな暮らしやすい社会の実現に貢献します。

環境方針

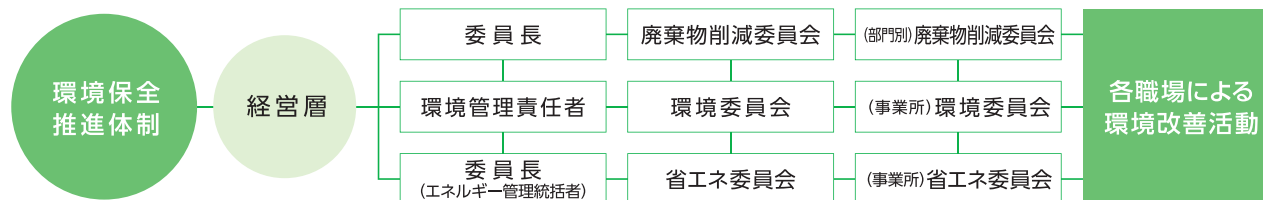
- ① 環境関連の法規制及びその他要求事項を順守し、社会に信頼される事業活動をおこないます。
- ② 地球温暖化防止のため省エネルギーなどのCO₂排出の低減活動を推進します。
- ③ 循環型社会に貢献できるよう省資源・廃棄物削減・リサイクルの活動に積極的に取り組みます。
- ④ 環境影響の可能性のある化学物質を適切に管理し、リスクを抑えて環境保全を図ります。
- ⑤ 環境マネジメントシステムを推進し、従業員の環境教育や環境監査を実施し継続的な改善を進めます。
- ⑥ 良き企業市民として、地域の環境保全活動を通じて、持続可能な社会の構築に貢献します。



環境マネジメント体制

環境活動を組織的に推進するため、トップマネジメント直轄で環境管理責任者が環境に関する統括管理を行い、環境委員会の活動で会社全体での環境活動を行っています。産業廃棄物と省エネルギーについては専属部会を設置し、より一層の低減推進を図るとともに、各部会で連携をとり環境マネジメントを推進しています。

■ 環境保全推進体制



環境内部監査

環境マネジメントシステム運用状況をチェックするため、内部環境監査を実施しています。監査チームは社内規定された監査員研修を修了した2~3名でチームを編成し、環境マネジメントシステムの適切な運用、維持・向上がはかられているかを確認しています。また、運用状況が不適切な組織に対しては、追加監査を実施し適切な活動になるよう是正を行っています。

外部環境審査

環境マネジメントシステムの運用がISO14001 (2004年版)に従って適切に行われているか確認するため、社外の審査登録機関である一般財団法人 日本品質保証機構 (JQA) に審査を依頼しています。

2015年度は(株)イノアック住環境揖斐川事業所の拡大審査も合わせて実施しました。その結果、改善指摘事項は発見されず、システムが維持されていると判断されました。また総合所見として、変化点における環境側面の見直し、環境目標達成の手段の評価や効果の検証の必要性などが挙げられました。

2015年度 主要活動総括

イノアックにおける2015年度の主な環境取り組み結果は、下記表の通りです。エネルギー使用量については、最新の各種省エネ機器への更新や節電対策などにより、前年比で使用量の約10%減を達成しました。廃棄物処理量については、再使用化・燃料化などをさらに進めましたが、設備移管時や材料変更時などの生産活動と連動しない廃材や調整品などの廃棄が重なり、目標未達成となりましたが、継続した発生量削減活動を行うと共に、積極的なリサイクル推進活動に取り組んでいます。

取り組み項目	2015年度活動方針・目標		2015年度活動実績	結果
エネルギー使用量削減	工場系サイト	原単位(動力費/生産金額) 2.43以下 〔使用量(原油換算値) 25,523kl(2014年度実績)〕	原単位 2.33 〔使用量(原油換算値) 22,794kl(2015年度実績)〕	🌳
	事務所系サイト	使用量(原油換算値) 95.6kl以下	使用量(原油換算値) 89.1kl	🌳
廃棄物削減	工場系サイト	原単位(処理量/生産金額) 4.53以下 〔処理量 3,148t(2014年度実績)〕	原単位 5.30 〔処理量 3,475t(2015年度実績)〕	🌱
	事務所系サイト	処理量 1,533kg以下	処理量 1,382kg	🌳
環境改善活動	環境改善件数(全社トータル)859件以上		1,408件	🌳
よりよい環境製品の開発と拡販	技術開発部門による軽量化製品の開発、営業部門による環境配慮製品の拡販(各部門で目標値設定)		テーマ開発・拡販実施	🌳
環境コミュニケーション	社会環境報告書の発行(CSRレポート)の発行		発行	🌳

🌳 目標達成 🌱 目標未達成

※主要活動総括の集計対象事業所は次の通りです。

(株)イノアックコーポレーション	安城事業所、桜井事業所、南濃事業所、八名事業所、本社(名古屋)、東京支店、大阪支店、池田工場、池田第二工場、大野工場、神野工場
(株)イノアック住環境	大野事業所、揖斐川事業所

環境法規制の順守

イノアックでは、事業活動に関連する環境法規制を特定し、日常管理を行っています。各事業所において、環境マネジメントシステムの一環として、騒音や産業廃棄物処理など法に基づく適切な対応が出来ているか、監視・測定及びその評価で、環境汚染の未然防止など環境リスク管理を行っています。今後も引き続き企業倫理にのっとり、環境法令の順守の徹底はもとより自治体との環境保全協定等についても、厳正に順守をしていきます。

■ 当社の事業活動における主な環境関連法規

- 大気** 大気汚染防止法、自動車NOx・PM法、ダイオキシン類対策特別措置法
- 水質・土壌** 水質汚濁防止法、浄化槽法、下水道法、土壌汚染対策法
- 騒音・振動・悪臭** 騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法
- 化学物質** 化学物質排出把握管理促進法、毒物及び劇物取締法
- 省資源・循環** 省エネ法、容器包装リサイクル法、フロン回収破壊法、PCB処理特別措置法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- 防災** 消防法、高圧ガス保安法
- 一般・その他** 工場立地法、特定工場における公害防止組織の整備に関する法律(公害防止組織法)、電波法

※地方公共団体の条例等については割愛 ※一部略称法にて表記

緊急事態の訓練

各事業所の特性に応じた事故・緊急事態の特定を行い、火災や設備などによる化学物質(油類・溶剤等)の漏洩など環境汚染の予防及び拡大防止のため、定期的な訓練を実施しています。安城事業所では、2015年5月27日、12月1日に全体防災訓練を、それ以外に原料流出防止訓練や夜間避難訓練など、部門毎の特質に即した個別の訓練を実施しています。その他の事業所においてもそれぞれ非常時の訓練を行い、有事に備えています。



安城事業所/消防隊による放水



桜井事業所/被災者の救出

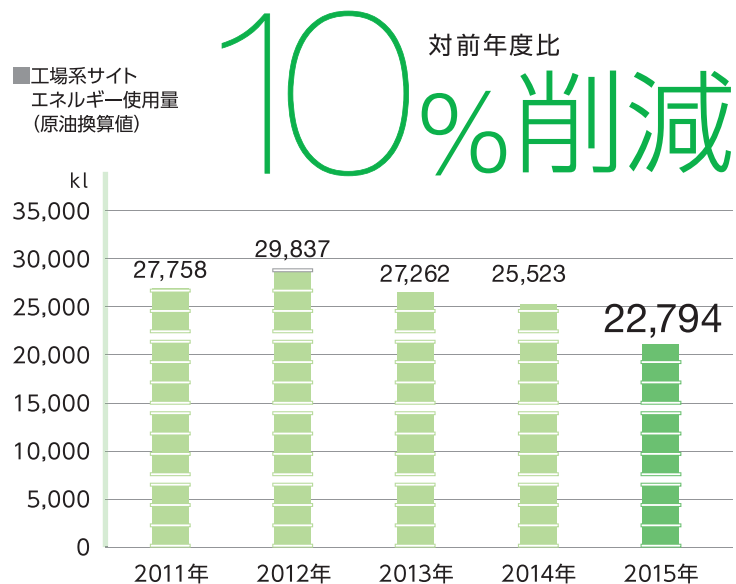


南濃事業所/原料漏洩の対処

環境負荷の低減

エネルギー使用量削減

イノアックは、従来から地球温暖化防止のため、CO₂排出量の削減や省エネを推進してきました。具体的な活動としては、2014年と同様に6月～9月の夏期省エネ目標及び12月～翌年2月を冬期省エネ目標として特別設定して取り組みました。またエネルギー使用量の多い機器類を最新の省エネタイプへ更新し（インバータータイプのコンプレッサー、電動式インジェクション成形機など）、さらに照明機器のLED化や太陽光発電の導入なども推進しました。その結果、2014年比で10%の使用量の削減を達成しました。



[取り組み事例]

2015年 省エネ推進 重点実施内容

インバータータイプのコンプレッサーへの更新

窓等への断熱・遮熱シートの貼り付け

インジェクション成形機を油圧式から電動式へ変更

工場内の水銀灯のLED化

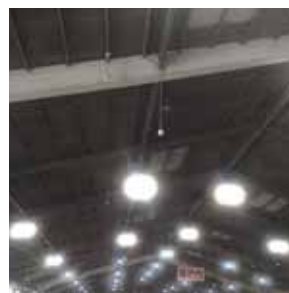
エアコン室外機的能力アップ(スーパーコンデンサー)

冷風機の設置

太陽光発電の導入



桜井工場/電動式INJ成形機



桜井工場/水銀灯LED化



安城工場/エアコン室外機



安城工場/太陽光発電

サマーエコスタイルキャンペーン

イノアックでは節電対策、地球温暖化防止策の一環として、サマーエコスタイルキャンペーンと題してキャンペーンを実施し、従業員の省エネ活動の啓蒙を働きかけています。

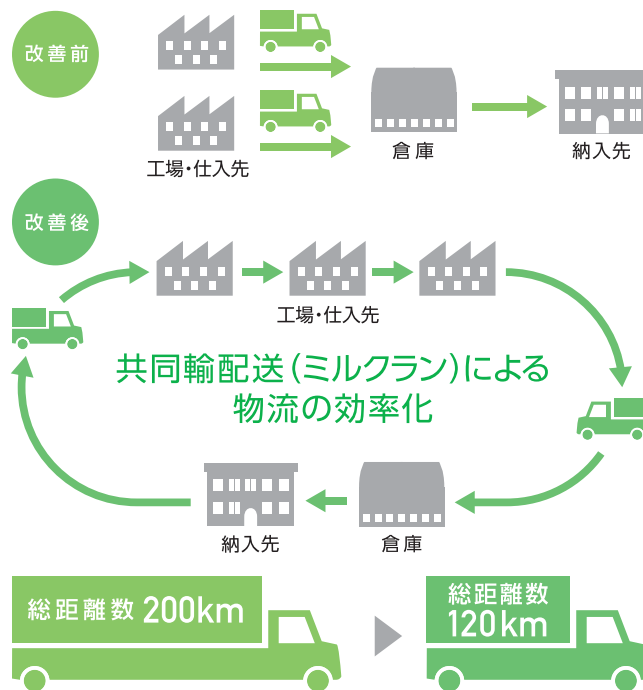


環境負荷の低減

グリーン物流へのアプローチ

グリーン物流へのアプローチとして、共同輸配送（ミルクラン）、鉄道・海運へのモーダルシフト、物流拠点集約など物流改善活動を行い、エネルギー使用の合理化及びCO₂排出量の低減など物流からも環境改善に取り組んでいます。

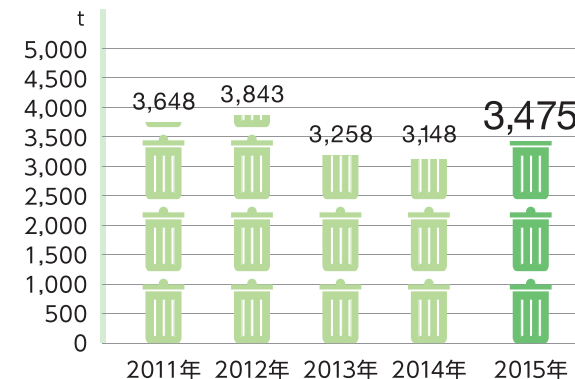
■ 共同輸配送（ミルクラン）による物流の効率化



廃棄物削減活動

廃棄物削減活動については、全社廃棄物削減会議を中心に、廃棄物削減事例の報告及び横展開と、廃棄物の発生源対策として、再生材料インライン使用や、梱包用品など副資材の変更・削減、貨物の流通に使用した木パレット等の返却の徹底、分別によるリサイクル資源としての活用の拡大や、排出カスを乾燥・粉砕処理することによる燃料としての使用などにより、ここ数年は処理量は減少傾向にあります。2015年は2014年比では増加となったものの、2012年比では約10%減少しています。

■ 廃棄物処理量

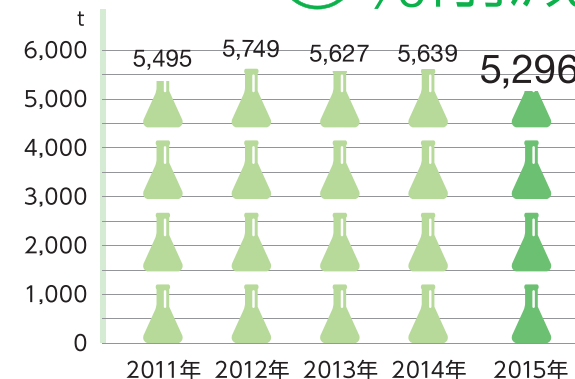


環境負荷物質低減活動

イノアックではウレタンフォームの原料であるm-トリレンジイソシアネートや、塗装工程におけるキシレンやトルエンなど「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」で定められた、PRTR対象化学物質を使用しています。それらの対象化学物質は、非含有タイプへの切り替えや収率改善による使用原料のロスを減らし、削減を行っています。対象物質の取扱量は減少傾向にあり、2015年は2014年比で約6%減少しています。

■ PRTR対象物質取扱量

対前年度比
6%削減



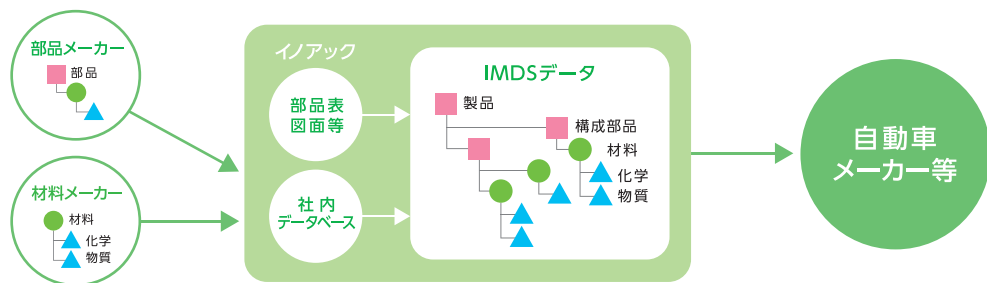
※P15・16の環境データに関する集計対象事業所

©(株)イノアックコーポレーション/安城事業所、桜井事業所、南濃事業所、八名事業所、本社(名古屋)、東京支店、大阪支店、池田工場、池田第二工場、大野工場、神野工場 ©(株)イノアック住環境/大野事業所、揖斐川事業所

IMDSの利用促進

イノアックは、ウレタン、ゴム、樹脂の3素材を利用した成形品製造メーカーとして、特に主力となる自動車部品分野ではIMDS^{※1}を利用した化学物質情報の登録および顧客への報告を行っています。2003年2月にIMDSを導入して以来、サプライチェーンを通して必要情報を収集し、IMDS登録を行う管理体制を整えています。IMDSの有効利用、信頼性の確保、効率化のために、各技術部門の環境担当者を対象にした個別指導や勉強会を実施し、情報や課題を共有化し問題解決に努めています。

■ イノアックにおけるIMDSの情報収集～報告の流れ、化学物質管理の仕組み



※1 IMDS (International Material Data System) : 欧州ELV指令への対応に端を発して開発された自動車業界における材料・化学物質情報を伝達・収集するインターネットを利用したデータベースシステム。
 ※2 REACH (Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals) : EUで2007年6月1日に施行された化学物質管理に関する法規で、成形品に対しても含有する高懸念物質情報の伝達等の義務が課せられるなど幅広い管理・対応が求められる。

社内データベースの構築

サプライチェーンへの調査を基に収集した、購入部品や原材料に含まれる化学物質の情報を一元管理する社内データベースを開発し、2007年末より自動車部門にて運用しています。IMDSへの登録や環境負荷物質の含有調査の際に、必要となる各種情報を素早く取り出すことや重複調査を回避することができるため、作業の効率化が実現され、さらには報告内容の精度向上にも貢献しています。

欧州REACH規制への対応

イノアックは、自動車部品を主とする成形品以外に、ウレタン、ゴム等の素材も各種産業用部品として生産しており、各素材の原料まで含めた多岐にわたる調達品の化学物質情報の把握が必要となります。そのため環境管理部門がREACH^{※2}規制等の環境関連法規に関する最新情報を都度社内関係者へ配信し、最新の高懸念物質の情報等を的確に把握・共有化するとともに、購入原材料に含有する化学物質の情報収集を行っています。

グリーン調達基準の制定・運用

各種法規や顧客等により規制される化学物質や、含有量を把握して削減に努めるべき化学物質などをリスト化してグリーン調達基準として調達先に提示し、購入する原材料に含有する化学物質情報の把握に利用しています。またREACH規制等の最新法規への対応も考慮した見直しを行いながら、運用しています。

社内教育体制

企業における環境活動を高めるため、環境教育を実施しています。

■ イノアック教育体系(環境関係分)

集合研修	一般教育	法律関係	環境負荷物質の基本
		ISO関係	ISO14001規格解釈コース ISO14001内部監査員育成コース
	専門教育	法務関係	廃棄物処理法と排出事業者の責務
部門研修(ISO14001に沿ったもの)		環境方針の周知 著しい環境側面に応じた教育	

ライトダウンキャンペーン2015

イノアックは、地球温暖化防止策として環境省が推進している「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」に毎年参加しています。2015年度は夏至(6/22)と七夕の日(7/7)にグループ会社を含めた10事業所で実施しました。



本社(名古屋)ネオンサイン



安城事業所正門看板



桜井事業所西側看板



桜井事業所正面看板

事業所周辺の清掃活動

各事業所では事業所周辺の清掃活動を実施しています。



安城事業所



大野工場



南濃事業所



八名事業所

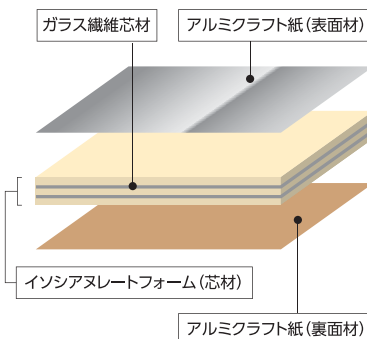
環境対応製品事例 ①



省エネ 軽量で防湿性も備えた断熱材

サーマックスRII

サーマックスは建築用断熱材、設備遮熱材など広く断熱・遮熱材として使われるイソシアヌレートフォーム[※]です。「サーマックスRII」は、熱伝導率0.022W/mKと高い断熱性、燃焼時炭化する難燃性を有し、厚さ25mmで1.3kg/m²の軽量性、独立気泡とアルミ箔による防湿性、ノンホルムアルデヒドといった環境安全性にも優れる製品です。



※イソシアヌレートフォームはウレタン結合に加え、イソシアヌレート結合を持つ複合体の分子構造フォームです。

優れた断熱性能

品名	密度 (kg/m ³)	熱伝導率 (W/mK)	厚さ (mm) [※]
サーマックスRII	33	0.022	22
硬質ウレタンボード	30	0.024	25
押出ポリスチレンフォーム ^{※1}	30	0.040	40
ロックウールフェルト ^{※2}	45	0.049	50
グラスウール ^{※3}	10	0.052	55

※1 押出ポリスチレンフォーム：JISA 9511 1種 ※2 ロックウールフェルト：JISA 9504 ※3 グラスウール：JISA 9521
※熱抵抗値1mk/wとなる厚さの比較(同じ断熱性能を得るのに必要となる厚さ)

塩ビ系防水シート用の「サーマックスRII」の特徴

屋外に近い環境下での断熱性・耐候性・耐水性・耐熱性などの品質のバランスが良く、また塩ビシートの可塑剤を吸着しない従来の「サーマックス」に、施工時の課題となる曲げ剛性および耐座屈性を向上させたタイプを開発。アルミ箔仕様により、塩ビシートのピンホール通電検査も実施可能です。



敷設している様子



施工状況(手前が「サーマックスRII」)

曲げ剛性・耐座屈性を向上



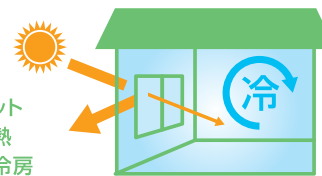
グリーン 低VOCで、遮熱・遮光効果のあるシート

PureCell「セルシェード」

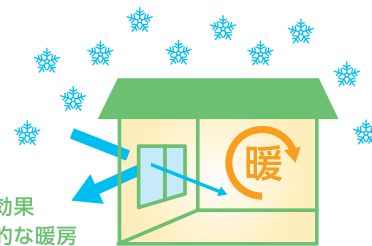
PureCell「セルシェード」は、低VOCで環境に優しい発泡素材PureCell(ピュアセル)を使用した遮熱・遮光シートです。PureCellは耐熱性、耐光性に優れ、また自己粘着性と衝撃吸収性を合わせ持ちます。この特性を活かした「セルシェード」は、表面にPETフィルムをラミネートすることで更に表面強度を高め、窓ガラスへの貼付により外気からの遮熱や遮光を発揮し、室内の温度管理(断熱)に効果があります。



夏

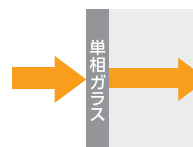


冬

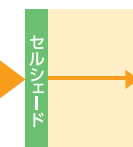


遮熱・遮光効果

■ 単相ガラス(3mmフロートガラス)



■ セルシェード



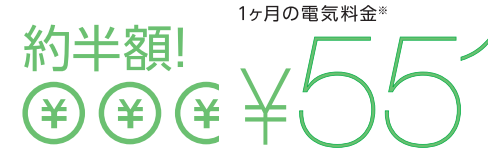
※1 マットPETサポート品(AS-200PM 1.0mmt) ※2 3mmフロートガラスに貼りあわせた測定値

省エネ効果

■ 単相ガラス(3mmフロートガラス)



■ セルシェード

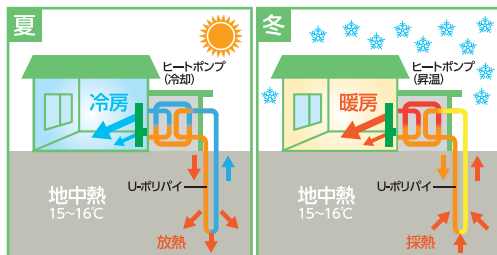


※電気料金算出条件/ガラスサイズ(2.0×1.8m)、屋内外の温度差15℃、1日の暖房使用時間8時間、1ヶ月の暖房使用日数20日、1kWhの電気代単価¥22/kWhの条件で算出した場合。

環境対応製品事例 ②



グリーン 自然エネルギーを利用した『U-ポリパイ』の発展版 地中熱利用スパイラル型熱交換器



地中およそ10~100mの安定した熱(15℃前後)を利用して空調や融雪を行うシステムを、地中熱利用熱交換システムといいます。『U-ポリパイ』は、地中に埋設した管の中の液体が地中の熱と熱交換して冷暖房に利用するシステムで、自然エネルギーを利用しており、低消費電力を実現しています。

再生可能エネルギーの「地中熱」を利用して冷暖房を行う

■ 埋設状態



従来品:U-ポリパイ

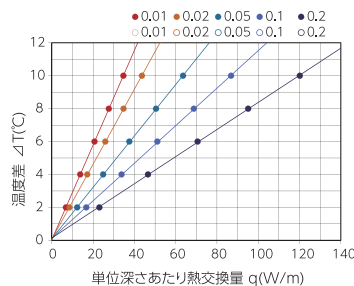


開発品:スパイラル状チューブ

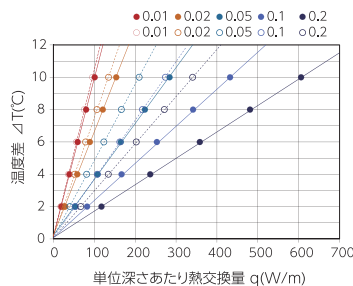
杭施工と同時の設置で工期短縮

さらにこの『U-ポリパイ』を発展させた『スパイラル型熱交換器』では、建物の基礎工事となる杭施工と同時にスパイラル状の埋設管を設置することで、工期の短縮と工費の低減を実現。また、単位深さあたりの熱交換量が『U-ポリパイ』の約3倍となり、放熱・採熱効率が格段に向上しました。

■ 熱交換性能比較



従来品:U-ポリパイ



開発品:スパイラル状チューブ

3倍!
熱交換量
(放熱・採熱効率のアップ)



コンフォート 二重構造で断熱性・吸音性を向上 ツインコンポジットダクト

自動車のエアコンの風を車室内(エア吹き出し口)まで導く筒状のダクトは、従来はポリエチレン製のブロー成形品が使用されてきましたが、燃費向上の要求から、さらなる軽量化や断熱性の向上が求められ、それに応えるため繊維層と発泡層の二層構造の『ツインコンポジットダクト』を開発しました。重量は従来品の約半分となり、断熱性は約60%向上し、さらに吸音性も向上してエアコンのブロー騒音の低減や、結露の滴下の抑制といった効果も実現しました。

現行品:ポリエチレン製ブローダクト



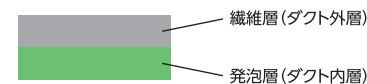
PE単層

開発品:ツインコンポジットダクト



繊維+発泡PE 2層シート

- ・軽量化: 現行比 約50%ダウン
- ・断熱性向上: 現行比 約60%アップ
- ・結露防止: 現行 結露あり→結露なし
- ・吸音性向上: 現行比 約10%改善



お客様の声を活かした製品づくり

お客様の課題解決に向けて

より安全で快適な日々の暮らしの実現に向けて、現代社会の進化はますます加速化しています。イノアックは素材プロセスメーカーとして、この社会のニーズに柔軟に対応し、貢献することが存在意義と捉えています。人々が安心して暮らせる安全で快適な社会の実現のため、お客様の課題解決に向けて私たちのチャレンジは続きます。

お客様からの評価・受賞

イノアックでは、世界のお客様にご満足いただける、地球環境に配慮した製品の供給をめざしています。

2015年も国内外のお客様から評価いただき、さまざまな賞を受賞しています。

一例として国内では、品質・コスト・量産対応・CSR・開発のレベルアップへの取り組みに対して、5年連続で「プレミアムパートナー」に認定いただきました。また海外でも、顧客のプロジェクトチームと一丸となり納入部品の安定した品質と納期を確保し、優秀サプライヤーとして「初期品質優良」の感謝状をいただいた事例や、開発・設計段階および既存製品の原価改善活動の成果に対し、原価改善優秀賞を受賞しました。

〔2015年度の主な受賞〕



富士ゼロックス株式会社様より
「2015年度 プレミアムパートナー」に認定



東風日産乗用車公司様より
初期品質優良感謝状受領

品質向上の取り組み

イノアックでは品質マネジメントシステムのレベルアップ、重大クレームの未然防止活動、品質を担う人材育成を重点に、様々な品質向上活動を行っています。日々PDCAサイクルを回し、お客様にご満足いただける品質の提供を第一に努めています。

※ PDCA: 計画、実行、評価、改善

〔取り組み事例〕

品質トップ点検

品質マネジメントシステムのPDCAを回すことで、プロセスの適合性・有効性を継続的に改善しレベルアップするため、品質責任者による監査・指導を実施しています。

重大クレームの未然防止活動

社会的信用の失墜と多額の補償金により、会社の存続が危ぶまれるような品質不具合を未然に防ぐ事を目的とし、国内・海外の生産拠点に対し品質保証・管理レベルを4M※1視点で監査・指導を実施し、品質力向上に努めています。また、新技術・新材料・新プロセス・新用途のいずれかに該当する新製品については、上市前にDR※2を実施し、重大不具合の未然防止に努めています。

※1 4M: 人、機械設備、材料、方法
※2 DR: デザインレビュー

人材育成

イノアック全社員を対象とし、問題解決・品質改善活動の一番基本となる品質管理の基礎教育を進めています。この教育は品質管理の基礎であるQC7つ道具から、検定・推定、配置実験・回帰分析などの統計的手法を教育し、国内・海外の品質を担う人材育成を進めています。

QC改善世界大会

日々の生産改善・品質改善のためQCサークル活動を行い、「生産性の改善」、「不良削減」、「収率改善」、「自動化・省人化」と多岐にわたり、各自の抱える課題について、PDCAを回して解決した大きな成果を、QC改善世界大会を通して改善のポイントをグローバルに展開し、さらなる改善に取り組んでいます。



サプライチェーンマネジメント

調達基本方針

① グローバル調達活動の推進

イノアック国内外の拠点を活用したグローバルな調達活動と、パートナー関係の強化を図ります。

② 法令・社会規範及び社内規程の順守

法令・社会規範及び社内規程を順守し、健全で開かれた調達活動を推進します。

③ 公平・公正で誠実な調達活動の推進

お取引先様に対して公平・公正な競争の機会を提供し、誠実な調達活動を推進します。

④ 環境・人権に配慮した調達

イノアック環境方針に基づき、地球環境に配慮した調達活動を行います。紛争鉱物(コンフリクト・ミネラル)等、人権・社会問題の原因となりうる原材料の使用については、影響に配慮した調達活動を行います。

⑤ お取引先様との相互信頼に基づいたパートナーシップの構築

お取引先様との強固な信頼関係と連携を図り、技術力及び品質の維持・向上に努めます。

グローバル拠点における最適調達の実施

原材料、部材等の現地調達を通じて事業拠点の所在する国々に貢献し、最適品質・最適価格に加え、長期的な取引を念頭に入れたお取引先様との良好なパートナーシップをめざします。またグローバル生産に対応した、より戦略性の高い購買活動を推進します。

お取引先様とのパートナーシップ強化

お取引先様約80社のご協力の下、イノアック協力会を組織し様々な活動に取り組んでいます。講演会等を通じたコンプライアンス等の啓蒙活動、また分科会での活動内容について、お取引先様代表に全社のQC発表会にて発表いただくなど、相互の企業レベルを向上することに努めています。



環境に配慮した調達活動の推進

地球環境に配慮した調達活動を一層推進するため、「イノアックグリーン調達基準」を改訂し、原材料・部材の様々な環境規制への対応を進めています。また、調達物流の改善にも取り組み、積載効率を向上させることで、環境負荷の低減にも努めています。

紛争鉱物への対応

2010年に米国で成立した金融規制改革法にて義務付けられた、いわゆる紛争鉱物の使用に関する情報開示に関して、お取引先様各社と連携し、責任ある調達活動を推進します。

社会・地域貢献活動 (国内)

イノアック・イノベーションサポート

イノアックでは、ささやかながら地域社会への貢献の一助として文化支援活動「イノアック・イノベーションサポート」を永年にわたり続けています。内容はバレエやクラシックコンサートへの協賛など、多岐にわたっています。2015年の東京公演はミハイロフスキー劇場バレエの「新春スペシャル・ガラ」、名古屋公演はウィンナー・ワルツ・オーケストラの「宮殿祝賀コンサート」をそれぞれサポートしました。このような各種イベントへの協賛等により、文化振興に貢献するだけでなく、社会とイノアックの結びつきを一層深めるきっかけとなることと信じています。今後も積極的な支援活動を続けていきます。



地域教育活動

地域に根ざし育まれてきた企業市民として、イノアックでは地域の人々との交流に積極的に取り組んでおり、各事業所で小学生から大学生までを工場見学や職場体験、インターシップなどで広く受け入れています。一例としては、10月に池田事業所において、地元中学校からの要請を受けて職場体験を実施し、製造現場で軽作業を体験してもらうことで、ものづくりの大切さを経験する機会を提供し、地域教育活動へ協力しました。



自衛消防隊の活動が表彰されました

安城市防火危険物安全協会の取り組みの一環として、地域企業の自衛消防隊としてポンプ操作法訓練、操作指導会や年初の消防署出初式への参加要請があります。桜井事業所ではこれらの地域行事に積極的に取り組み、その成果において「2015年訓練活動の表彰」として評価をいただきました。

毎年、新入社員が自衛消防隊ポンプ操作法訓練に励み、地域貢献に寄与できるよう取り組んでいます。



七夕バザーを開催

安城市七夕祭りに協賛し、初めての試みとして七夕バザーを開催しました。当日はイノアックグループの家具・インテリア製品の製造販売会社HUKLAやその他のグループ会社製品の格安での販売や、くじ引きのほか、ショールームの開放など、イノアックの事業を地域のみなさまに知っていただく、よい機会となりました。

地域住民との積極的なコミュニケーションの促進と、活気ある地域づくりへの貢献をめざして継続する予定です。



社会・地域貢献活動 (海外)

日本語スピーチコンテストへの協賛

INOAC POLYTEC de MEXICO (メキシコ)

2013年より、地元のヌエボレオン州立大学の日本語スピーチコンテストに協賛しています。このコンテストは現地日本語学習者の意欲向上と、日本語教育の促進および日系企業との架け橋になる事を目的に、2007年より開催されています。

Ban Naipol Schoolでの消火器訓練

BANGKOK FOAM CO., LTD. (タイ)

小学校全体の避難訓練と応急処置訓練、さらに教員と6年生が実際に消火器を使って初期消火を行う訓練をサポートしました。公的機関の対応が遅いため、近隣の教育施設等から依頼があった場合協力しています。



障がい者のフリーマーケット

INOAC TOKAI (THAILAND) CO., LTD. (タイ)

障がい者の自立支援をサポートするため、毎月2日間社員食堂前の広場で、障がい者の方やそのご家族が出店するフリーマーケットを開催しています。

衣料品、日用雑貨、食料品等様々なお店が並び、従業員も楽しみにしています。



地域住民参加のイベント

INOAC POLYMER LANKA (PVT) LTD. (スリランカ)

従業員とその家族でシンハラ正月を祝う行事を行い、団結力を養うようなマラソン、椅子取りゲーム、綱引きなど多彩なメニューを楽しみました。また初めての試みとして地域住民にも参加していただき、交流しました。



工場周辺道路の整備

INOUE RUBBER VIETNAM CO., LTD. (ベトナム)

「安全第一」の方針にもとづき、従業員や業者、顧客が工場に行くために必ず通る工場周辺の道路を1.2キロにわたり整備しました。整備後は近隣の道路を使用される住民の方も、安全に走行できるようになりました。



赤十字への献血活動

INOAC PHILIPPINES CORPORATION (フィリピン)

毎年5月頃、献血活動に任意で参加しています。民間の血液バンクの提供する血液には薬物中毒者や感染症患者の血液が含まれているとの報告もあり、ボランティアによる献血はフィリピンでは特に重要です。毎年献血ボランティアを増やしていきたいと思えます。

ワークライフバランスの推進

両立支援のための制度

従業員が働きやすい環境づくり、女性の活躍推進を目的に、仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいます。育児休業規程では、子が2歳に達するまで育児休業取得を可能とし、子の看護休暇は1人の場合は5日間、2人以上の場合は10日間の特別休暇(有給)を付与しています。また、最長3年間(子が小学3年生までが対象)取得可能な「育児短時間勤務制度」を導入しています。ほかにも、配偶者出産時に取得できる5日間の特別休暇(有給)を設けています。

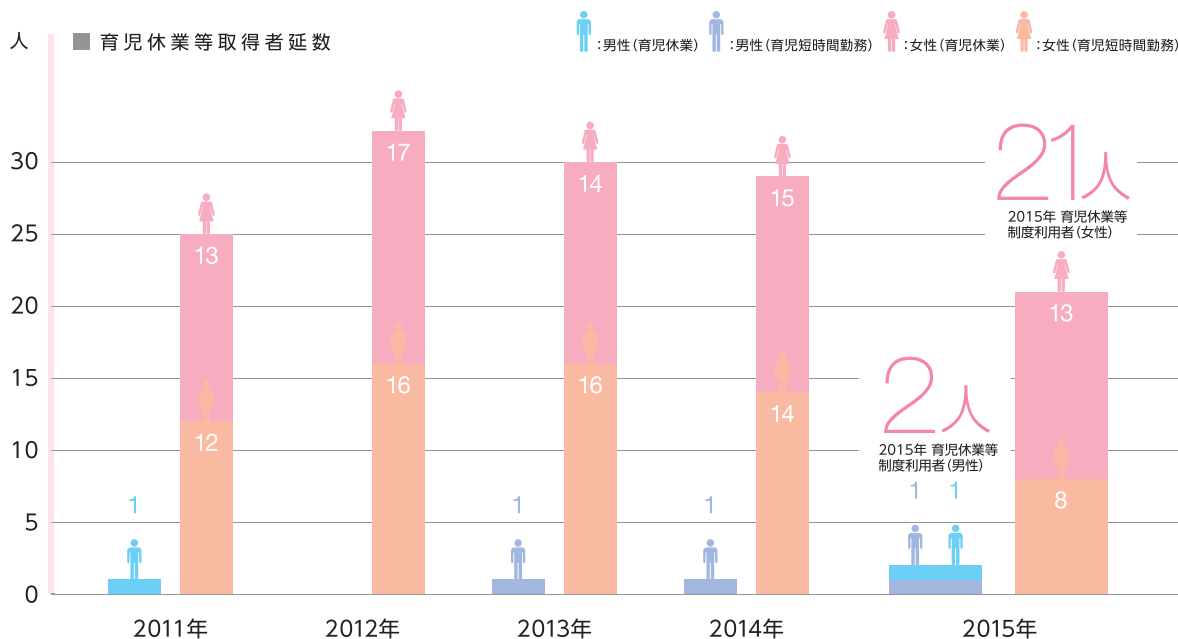
両立支援制度一覧(施行年)

- 配偶者出産休暇(1980年以前)
- フレックスタイム制実施(1990年)
- 介護休業規程(1990年)
- ハッピーホリデー休暇(1991年)
- 育児休業規程(1992年)
- 母性健康管理の措置に関する規程(1998年)
- 半日有給休暇取得制度(2000年)
- ファミリーサポートホリデー休暇(2005年)
- 子の看護のための休暇(2005年)
- 育児休業規程改訂(休業期間延長)(2005年)
- 育児短時間勤務制度(2008年)
- 介護休暇(2010年)

[取り組み事例]

ポジティブアクションプロジェクト

両立支援活動の一つとして、安城事業所にて「企業参観」を開催しました。ウレタンのハンド発泡実験や製造ライン見学、液体窒素を使用し花が一瞬で凍り、ガラスのように割れる実験等、子供たちは真剣な眼差しを向けていました。また、お父さん、お母さんの実際の職場を訪れて、毎日どのような仕事をしているかを理解してもらうことができました。昼食は、社員食堂で好きなメニューを選んで、みんなで一緒に食べました。参加者からは、「楽しかった」「貴重な経験ができた」等の感想が寄せられました。



Voice 興味を持って、楽しむ

普段の休日から「工場見学」に出かけることが多い我が家。会社の「企業参観」の案内を目にし、「父ちゃんの会社で工場見学あるよ。見てみる?」の私の問いに、「見た〜い」の娘の返事で参加を決めました。5歳児に、「ハンド発泡」「試験機器のデモンストレーション」など、難しいことはわかりませんが、瞳をキラキラさせ、理屈抜きで楽しんでいる我が娘の姿を見て、「興味を持って、楽しむ」という仕事に対する原点を思い出しました。とてもよい経験をさせていただきました。(参加者感想より抜粋)

ダイバーシティの取り組み

女性社員の登用

女性社員の能力を引き出して、そのスキルや知識を業務で発揮してもらうため、積極的に女性社員の活用を図るとともに、会社へ貢献できる環境づくりを進めています。女性管理職候補向けに「女性活躍推進セミナー」を毎年開催し、女性社員の意識改革、キャリアアップを図っています。また、男性管理職向けに「女性活躍推進セミナー」も毎年開催し、女性社員の活躍を後押しできる体制づくりを行っています。

■ 女性管理職昇格者数 (※(株)イノアック技術研究所を含む)

2002年-2007年	2008年	2009年-2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
1	1	2	2	1	1	0
0	0	0	0	0	0	0

女性管理職
昇格者数合計
8人

女性活躍推進法施行に伴う取り組み

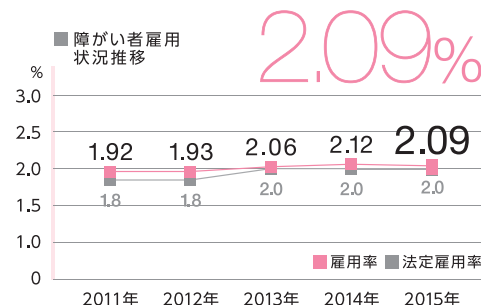
2016年4月女性活躍推進法施行に伴い、2016年4月1日から2021年3月31日までの5年間、女性が多くの部署で能力発揮・キャリア形成できるように下記3つの目標を掲げ、女性活躍の推進に取り組みます。

目標

- 1 係長相当級のうち、係長になっている女性の割合を男性の率と同率とするため、まず今期は10%とする。
- 2 女性管理職登用者を発掘するために、中堅社員研修や係長研修等の受講生の女性割合を10%とする。
- 3 管理職の年次有給休暇取得率を、一般職の年次有給休暇取得率と同率にする。

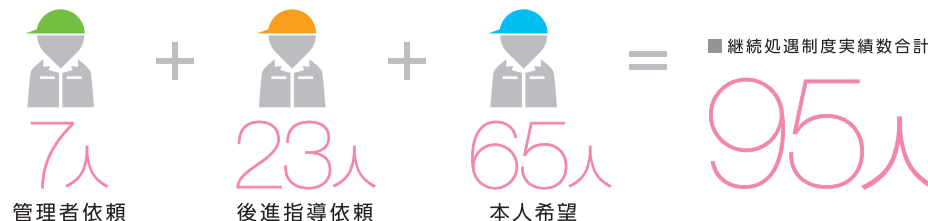
障がい者の雇用

すべての人の可能性を広げる社会の実現をめざし、障がい者の方を積極的に雇用しています。障がい者の方を雇用する事により、従業員の周囲に対する気配りが生まれ、意識が向上しました。



継続処遇制度の利用者

2015年1月から継続雇用の賃金形態を増加し、責任者としてやりがいを持てる制度を導入し、高齢者のキャリアを有効に活用できる環境づくりに積極的に取り組んでいます。



海外からの受け入れ

海外現地法人で働いている外国人を日本のマザー工場へ派遣し、技術習得やスキル向上のため「研修生」として受け入れ、人材を育成しています。日本で身につけた知識・経験を海外へ持ち帰って活用することにより、現地化の促進、ノウハウのグローバル伝承に繋がっていきます。また、海外現地法人からも「技能実習生」として受け入れを行っています。日本にて一定期間、特定の生産現場で作業をしてもらうことにより、帰国後の現場改善活動に寄与してもらっています。こうした取り組みを通して、グループの一員として自覚をもつと共に、イノアックファンになることを期待しています。

社員教育

グローバル人事総務部では、イノアックグループの従業員の能力を高め、成長できる場を与えていくための『社員教育』を企画・実施しています。『教育』は生涯学習の一環と位置付け、従業員個々人の持つ特性や能力を引き出し、結合することによって、チーム力を向上することを目的としています。教育計画を一元化(見える化)した『イノアック教育体系図』にすることで、イノアックの従業員は「どの職位で、いつ頃に、どんな教育を受けられるか」を事前に知ることができます。



階層別教育

人間的魅力、社会人としての常識、精神面など心の自立を目指す「人間性教育」と、将来必要とされる能力育成をめざす「能力アップ教育」を新入社員、中堅社員、管理職等の各階層に合わせて行っています。

部門別専門教育

業務に必要な基礎知識や専門知識、技能の習得をめざす教育を行います。各部門からの研修ニーズを吸い上げ、それに見合った研修カリキュラムを企画します。
 『営業部門』・・・初級、中級、上級の3つのレベルで、各々の営業力強化を図る研修。
 『技術部門』・・・中堅クラスの底上げを図る研修、プレゼンテーション力・コミュニケーションスキルアップ。
 『製造部門』・・・「モノづくり」の基本教育、基礎教育の拡充。



グローバル人材育成

イノアックグループには、海外に50を超える事業所(工場、事務所)があります。今後、ますます進むグローバル化(ボーダーレス化)に対応できる人材を育成するために『グローバル人材育成』にも力を入れています。『グローバルマインドセットセミナー』では、従業員のグローバル意識の改革を促し、若い時から『海外研修』や『短期海外出張』を通じて、海外(グローバル)を体感できるような教育を実施しています。また、海外に赴任する際、駐在先で困惑しないように、先輩駐在者の経験談を交えて様々な分野を勉強する『赴任前教育』を充実し、海外駐在候補者や駐在予定者を計画的に教育する体制を整えています。またグローバル化には欠かせない外国語の習得のために、現在5クラスの『社内語学教室』を各地で開設し、学習費の補助も行っています。さらに語学の実践的学習の為、海外語学留学にも年間10~12名の選抜メンバーが派遣されています。TOEICスコア650点以上を獲得すると、申請により毎月手当が支給される『語学手当制度』もあります。

自己啓発

従業員の自己啓発学習を補助するために、『通信教育制度』もあります。コース修了後、通信教育の受講料を、会社が半額負担(還付)する制度です。毎年、100を超えるコース(講座)を設定し、『通信教育ガイドブック』を従業員に配布します。年間70~80名が受講していますが、グローバル人事総務部では、年間100名を超えるよう啓蒙活動をしています。



安全衛生・防災

安全の理念と基本方針

- ① 安全は、企業存立の基盤である。
- ② すべての事故、災害は防止できる。
- ③ 安全は、全員の自覚と責任ある行動で達成できる。

という安全の理念に基づき、安全と健康の確保は、経営の最重要課題であり、安全衛生の管理体制を整備するとともに、安全衛生の高揚を図り、全員参加で社員一丸となった安全衛生管理活動を推進して、「安全は全てに優先する」を行動で示し、危険を予知して「危険な作業は絶対にしない・させない」の実践を定着しています。厚生労働省の運動行事や、過去の災害に学んだ月度重点実施事項を年間活動計画として定め、教育訓練の繰り返しと安全衛生防災活動評価による弱点の改善で、全拠点の安全衛生防災管理レベルの向上を図っています。

リスクアセスメント活動

災害発生プロセスの理解と、論理的な安全衛生管理の推進を図っています。

- ◎リスクアセスメントを実施し、危険源への対策と、危険源に関わらない作業方法の選択による、本質安全化を推進
- ◎化学物質の管理と、化学物質を取り扱う人材を育成
- ◎化学物質のリスクアセスメント教育の実施

全社安全衛生委員会の開催

トップダウンで取り組む安全衛生活動として、

- ◎中央安全衛生委員会…年4回
- ◎役員による現場点検…年2回 を実施し、
- ◎安全衛生実務担当者会議…年6回
- ◎各拠点安全衛生委員会…毎月

により全社の安全・衛生・防災意識の向上と、組織風土づくり及び再発防止の安全集会を開催しています。



災害ゼロを目指した安全宣言集会

体感道場で安全な人づくり

体感道場で、15の体感機にて危険な状況を疑似体験することにより、職場の身近な場所に危険があることを自覚するよう促します。怖さと痛さを体感して安全の大切さを身に付け、安全に強い人づくりと災害ゼロをめざして活動する意識改革に取り組んでいます。



体感道場

健康増進に向けた取り組み

管理監督者が率先垂範するよう、知識とスキルの向上を図っています。

- ◎メンタルヘルス、ハラスメントの相談窓口を設置
- ◎分煙化の徹底として、屋外喫煙室を設置
- ◎受動喫煙防止措置対策の推進
- ◎産業医、健康保険組合による学習・指導会を開催



産業医パトロール・産業医指導会

防災活動

危機管理規定に基づき行動し、自然災害などによる被害を最小限にとどめ、的確な初動対応と早期復旧を図ります。

1. 大規模地震災害
 - ◎建屋と設備の地震減災対策
 - ◎地震発生時の安全防災備品と備蓄品の備え
 - ◎地震災害発生後の対応
2. 火災・風雨水害対策
 - ◎生産現場の火災・防爆予防
 - ◎風水害対応備えと体制の確立

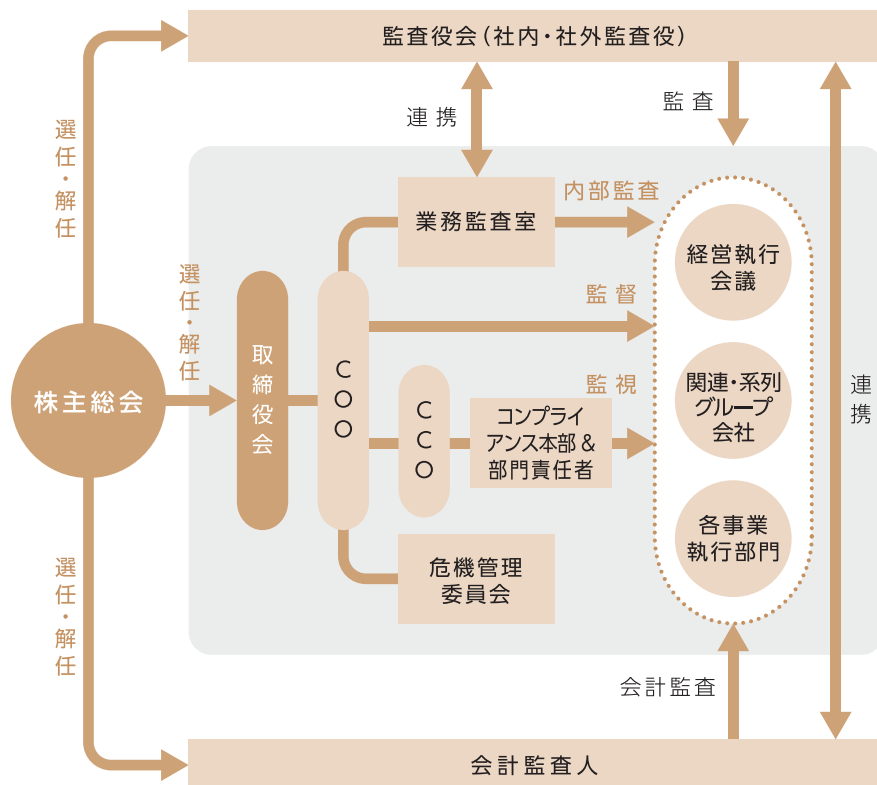


避難訓練

コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

イノアックは企業業績・企業価値・社会的信用性を高めるために、コーポレートガバナンス強化を重要な経営課題と位置付けています。

■ コーポレートガバナンス体系図(組織系統図)



[コーポレートガバナンス体制]

取締役会

取締役会は6名で構成されており、経営に関する重要な意思決定を行っています。各取締役より職務執行状況、財政状態および経営成績などの報告を受け、業務執行の監視・監督に当たっています。

執行役員制度

経営に関する監督責任と執行責任を分離するため、執行役員制度を導入しています。取締役会より執行権限を移譲された執行役員が、事業部・グループ会社・主要職能組織長として、意思決定の迅速化と業務運営の効率化を図り、重要な業務執行への対応を行っています。

監査役会

監査役会は、社外監査役2名を含む3名で構成されています。監査役は、取締役会等社内の重要な諸会議に出席するほか、業務執行状況の聴取を通じて、取締役の職務の執行状況を監査しています。

[内部統制システム]

職務の執行内容を法令及び定款に適合させるため、さまざまな施策を行っています。

コンプライアンス

コンプライアンス推進体制と、「企業行動規範」の全社員への教育。

情報管理

文書管理規程により、文書毎の保管部署・期間を定めた管理。

企業集団としての管理体制

関連・系列会社においては、関連会社管理規定を制定。業務運営ルールを明確にするとともに、必要に応じ監査役による監査を実施。

リスク管理

各種リスクに対し経営執行会議でマネジメントしており、必要に応じ危機管理委員会を開催。「マイナス情報ホットライン」の常設による、リスク情報の早期入手と対応体制を確保。

コンプライアンス

コンプライアンスにおける基本的な考え方

イノアックでは、コンプライアンスとは法令を守ることにとどまらず、従業員一人ひとりが高い倫理観を持って行動することと考えています。企業としての社会的責任を果たし、お客様の期待に応えていくためには、法令順守はもちろんのこと、従業員が企業の一員としての社会的責任を意識することが必要不可欠です。

コンプライアンス教育の実施

社内規程等の整備にとどまらず、従業員一人ひとりのコンプライアンス意識を高めるため、イノアック各拠点の営業担当者、調達担当者、新入社員、中途入社社員へのコンプライアンス意識教育を実施しています。他社のコンプライアンス違反事例を題材に、自職場での問題を想定したケーススタディや、日常業務を行う中での疑問点についてのディスカッションを行い、個人の法令順守意識の向上を目的としています。

相談窓口の設置

コンプライアンスの徹底のためには、万が一、コンプライアンス違反行為があった場合に、企業として迅速な対応を取ることが必要です。そのためイノアックでは、法務グループ及び外部弁護士事務所を相談窓口とする「ヘルプライン」を設置し、誰でも直接相談できる窓口を設置しました。また、別途「内部通報および公益通報者保護規程」を設け、通報者が不利益な扱いを受けないよう体制を整えています。

コンプライアンス・倫理プログラムの導入

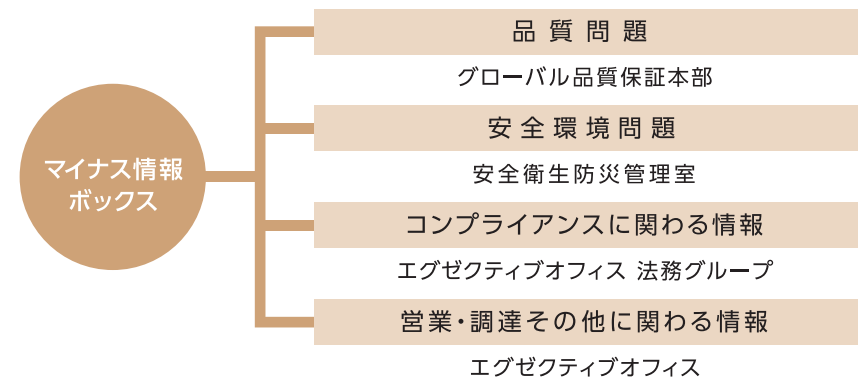
コンプライアンス・倫理プログラムを導入し、東京本社にコンプライアンス本部を設置しました。その統括責任者としてチーフコンプライアンスオフィサー（CCO）を任命、加えて国内及び海外の各地域、拠点ごとにコンプライアンスオフィサーを、更に各部門単位においてもコンプライアンス担当者を任命、配置しました。社内の規程を整備するとともに、従業員のコンプライアンス意識向上のための体制作りを行っています。

推進体制

コンプライアンス・倫理プログラムの一環として、国内外のグループ会社へのコンプライアンス徹底も強化しています。イノアックの社内規程をグループ会社にも適用可能なものへ改訂するとともに、グループ会社でのコンプライアンス研修も行っています。これにより、各グループ会社においてもコンプライアンスの順守意識を向上することができました。

マイナス情報ボックスの設置

コンプライアンスに関わる情報のみならず、品質関連問題、安全・環境問題、営業・調達・その他の問題が発生した際には、迅速に対応し問題の拡大を防ぐため、マイナス情報ボックス（受付窓口）を設置しています。



【お問い合わせ先】

株式会社 **イノアック コーポレーション**

<http://www.inoac.co.jp>

エグゼクティブオフィス広報グループ

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南二丁目13番4号

TEL : 052-581-1086 E-Mail : KOHO@inoac.co.jp

グローバル品質保証本部

〒446-8504 安城市今池町3丁目1番36号

E-Mail : GQ_system@inoac.co.jp